



上海日本人学校高等部 創立10周年記念式典を終えて

上海日本人学校高等部 校長 小堀 紀明

2021年11月6日(土)に上海日本人学校高等部創立10周年記念式典を挙行することができました。2020年2月からCOVID-19の感染防止を目的とした防疫体制が求められることとなり、学校運営は多くの対応が求められています。創立10周年記念式典もぎりぎりまで開催が心配されていました。

そのような中で来賓として在上海日本国総領事・大使赤松秀一様をはじめ、上海日本商工クラブ事務局長 中村仁様、上海市浦東新区教育局外事弁処長呂翠紅様、本校学校運営委員の皆様のご列席を得て開催できたことは校長として大変嬉しいことでした。

10周年記念行事

10周年記念式典は、記念行事の一環として実施しました。今回の記念行事は、第一に記念式典の挙行、第二に記念誌の編集発行、第三に記念品の製作と配布としました。それぞれの事業は上海日本人学校高等部の教育目標である「志を高くして自ら学ぶ国際人を育成する」を



上海日本人学校高等部 創立10周年記念式典
今まで以上に魅力ある学校を目指す

踏まえた形で計画実行することとしました。そのため、創立以来10年間の高等部の歩みを含めて少しでも生徒が関われるものとするとともに、その活動を保護者並びに外部の方々にも知っていただけることを意識しました。

高等部の歴史

2011年4月16日に第一期生55名を新入生として迎えスタートしました。上海日本人学校の建学の精神は「未来に向けた新しい価値観の創造」であり、校訓を「独歩博愛」としています。高等部は中国・上海という国際都市であることを生かし、国際性豊かな人材の育成を目指し、教育目標として「志高くして自ら学ぶ国際人を育成する」を掲げています。多くの方のご理解とご指導ご鞭撻を受けて創立10年を迎えることができました。この間に304名の卒業生を輩出しています。また、卒業を待たずして転学した生徒も数多くいます。

高等部の教育活動

教育目標達成のために「グローバルな教養と世界に生きる学力」「多様性の認識と異文化共生教育」「世界に通用するコミュニケーション力」「国際社会への参加による市民性の形成」の4観点を定め(1)上海の国際都市としての立地条件と教育支援を最大限に活用すること(2)国内

の進学校に準じた教育課程を編成すること(3)希望大学への進学のための指導を組織的・計画的に行うこと等を基本方針として定め次の3点に取り組みました。

第一に在上海日本国総領事館、上海教育国際交流協会、上海市人民对外友好協会、現地校、各国のインターナショナルスクール等の協力を得て国際交流事業の充実を図ってきました。

第二に平成21年(2009年)7月改定高等学校学習指導要領の方針に基づき「言語活動」「理数教育」「体験活動」「外国語教育」等を充実させる教育課程を編成しました。

第三に協力大学コンソーシアムの支援をいただき各大学の推薦入学枠を確保していただきました。



協力大学説明会の様子

これらの取り組みの成果として「職業人の話を聞く会」、インターナショナルユースキャンプへの参加、上海工商外国語学校を始めとした現地校やインターナショナルスクールとの交流を実施することができました。それらは、すべて生徒の成長に繋がっています。

また、授業においても言語活動の

充実を図る「本まつり」、「SJSオスカー」等の取り組みやアクティブラーニングを取り入れた対話的授業、「探究」といったプロジェクト学習に学校全体で積極的に取り組みがあり成果を挙げています。



SJSオスカー作品発表会の様子

さらに、協力大学をはじめとする学校推薦型入試における指定校推薦枠は生徒の進路選択においても自らのキャリア考える時間と機会を確保できている大きな要素です。

高等部の使命

日本人学校の使命として海外在留邦人の期待に応えることがあります。生徒、保護者の要望は多様化していますが、「国際化の一つとして語学力の向上」、「帰国後に本国との学力の差が無い」は共通したものです。また、上海日本人学校高等部では、前述の2点に加えて大学進学が求められています。

さらに、学校経営の中で財政面の適正化も重要な要素です。

創立10周年記念式典

記念式典は二部構成とし、第一

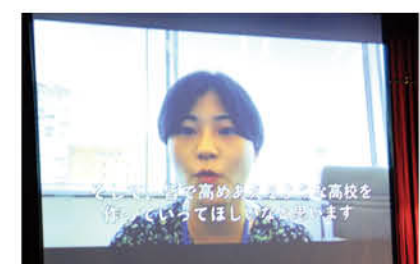


厳粛な雰囲気で行われた記念式典

部はセレモニーとして実施しました。国歌斉唱、校長式辞、来賓祝辞、記念品紹介、生徒代表挨拶、校歌斉唱など厳粛な雰囲気で行いました。

COVID-19防疫体制の中で帯同ビザの発給や大学受験の関係で日本に帰国して授業を受けている生徒もオンラインで参加できるようにしました。第二部は生徒の活動を中心に企画し、司会も生徒が行うとともに中国語のアナウンスを取り入れました。

軽音楽部の演奏とダンス部の演舞、校外活動報告としてインターナショナルサマーキャンプ(上海工商外国語学校主催)とインターナショナルユースキャンプ(上海市人民对外友好協会主催)の報告、歴代卒業生(第一期から第八期)からのビデオレターなど、充実した内容となりました。



卒業生からのビデオレター

2031年に向けて

2011年から10年間で培われた教育活動とそれによる成果は今後の教育活動に生かすことができるものが多々ありますが、2020年1月に始まったCOVID-19との戦いの中で新たな教育活動の在り方を模索しなければなりません。そのような中でも高等部はICTを活用した教育活動を導入しようとしていたこともあり、いち早くオンライン授業

やオンライン会議等を取り入れ、教育の質を担保できました。コロナ禍でしたが、高等部のICT化を加速させられたことはプラス要素でした。

来年度入学する新1年生から平成30年(2018年)7月告示の学習指導要領に準拠した教育課程で教育活動を実施します。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。これは、現在高等部が目指している教育活動と一致しており、上海の地にあること、少人数制で指導ができること、領事館、商工クラブ、協力大学の支援があることを最大限に生かして教育活動の充実を図っていきます。

終わりに

日本国内でできて上海でできないことがあるのは事実です。

しかし、上海の地で教育活動を行えることは、そのマイナス面を補って余ほどのプラス面があります。

今年度は、本校の特長を生かして「国際理解教育の推進」に全校で取り組んでおり、少しずつ成果も見え始めています。特に現地校や各国のインターナショナルスクールとの交流はより充実した内容を模索できる状況となりました。

また、PTA活動においても生徒の成長のために数々の協力をいただいています。

コロナを乗り越えて新たな日常がはじまる日は近いと考えています。2031年に向かって今まで以上に魅力ある上海日本人学校高等部であり、生徒、保護者、地域から愛される学校となることに全教職員で取り組んでいきたいと考えています。